

ゴーヤーカーテン・アンケートまとめ

(H19年版)

平成18年度より身近にある自然の恵み（日射や風・外気温湿度の変動など）を活用した温暖化防止につながる取り組みとして、草津市「小」エネルギー推進市民フォーラムと草津市（環境課）が協働でゴーヤーカーテンの普及事業を行っています。

これまでの省エネルギーの取り組みは、我慢を必要とするものが多かったのですが、ゴーヤーカーテンは、比較的、労力も少なく・楽しく実施でき、副次的な効果も期待できるため、市民の関心は大きかったと感じています。

◆調査実施

草津市「小」エネルギー推進市民フォーラム
草津市役所 環境課



◆調査対象・内容

<市民（配布）>

ゴーヤー苗配布先（約290世帯）へのアンケート調査（「ゴーヤーカーテン」の面積調査、及びゴーヤー植栽の多面的効果の調査など。）

回収率71.70%



<公共施設>

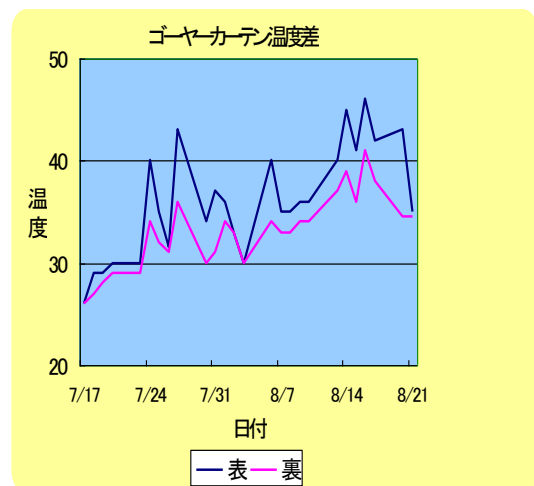
市役所1階の西玄関に植栽したゴーヤーの葉の表面と裏面の温度を測定（7月17日から8月21日まで間、午後1時時点）

公共施設30箇所（市役所2箇所・市民センター11箇所、公立幼稚園10箇所、公立保育園6箇所、その他1箇所）を対象にした「ゴーヤーカーテン」の面積調査、及びゴーヤー植栽の多面的効果の調査

○温度測定

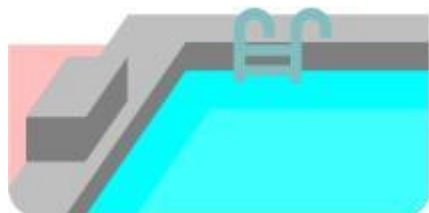
ゴーヤーカーテンが覆う外側と内側の温度を測定したところ、右図のように表面よりゴーヤーカーテンの裏面では2℃～3℃程度（平均2.8℃）低い結果になりました。

これは、主に日陰によるものと、ゴーヤーの葉っぱの蒸散効果によるものと推察します。



○ゴーヤーカーテンの面積

市民（配布）と公共施設のゴーヤーカーテンの総面積は、1,370㎡で、標準的（8コース）25mプール、約3個分に相当します。

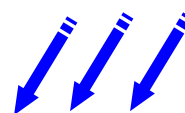


内訳	ゴーヤーカーテン 面積	標準的な 25mプール換算
市民（配布）	953㎡	約2個分
公共施設	417㎡	約1個分

○夏場のエアコンの抑制効果

ゴーヤーカーテンの設置に伴い、例年からすると、今夏はエアコンの稼働を約1～2割程度（平均16.22%）抑制したという結果になりました。（有効回答109世帯）

前述の温度測定の結果、2℃～3℃程度、部屋の内側が下がるという効果がありましたが、次で説明しますゴーヤーの多面的効果（「緑の癒し」「涼感の増加」…）や、温暖化防止に一役かっているというモチベーション（動機）も、エネルギーの節減行動につながっているように伺えます。



エアコンの利用抑制によるCO2削減量（有効回答世帯109世帯）

$109 \text{ 世帯} \times 197 \text{ kWh} \times 0.378 \text{ kgCO}_2 / \text{kWh} \times 0.16 = 1,299 \text{ kg}$

【参考】標準的な間取り・エアコン使用に回答世帯数と削減率を乗じて求める。

冷房期間消費電力量=2007省エネエアコン2.2kw（6～9畳）寸法フリー



園児に成長過程を説明



収穫したゴーヤー

○ゴーヤー植栽の多面的効果

市民（配布）・公共施設を対象にした両アンケート結果から「緑の癒し」「涼感の増加」が上位を占めるように、視覚的に良いという意見が多かったように思われます。

直接的な「エアコン抑止効果」もさることながら、心情面で環境貢献活動に参加しているというプラスの意識からか多面的な効果が選択されたと考えるところです。

<市民(配布)>

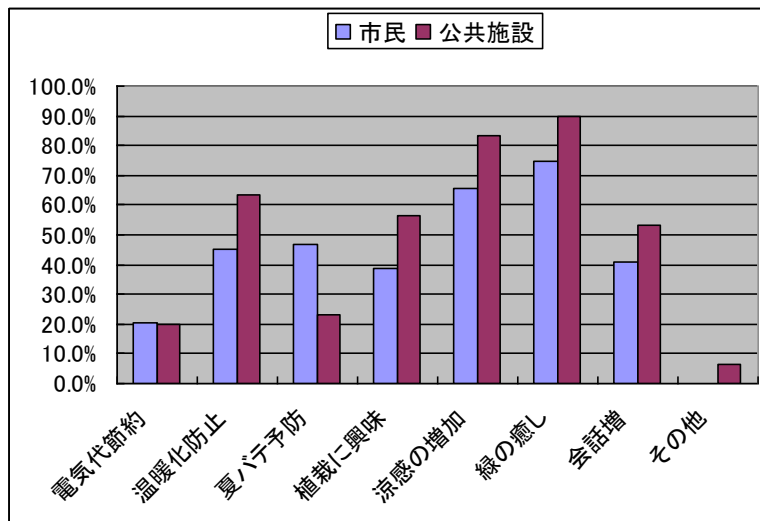
「緑の癒し」、「涼感」といった視覚的効果が上位（1・2位）にあり、続いて第3位に「夏バテ予防」があがっていました。そして、第4位が「温暖化防止」、第5位が「会話増」となっていました。見る楽しみ・食べる楽しみがゴーヤー栽培につながっていることが伺われます。

また、ご近所や家族の会話増など、コミュニケーションツールとしての効果があったことも見過ごせません。

<公共施設>

市民（配布）アンケートと同様、第1位は「緑の癒し」、第2位は「涼感」など、ゴーヤーカーテンの視覚的効果が上位を占めていました。本来の目的であった「温暖化防止」は第3位でした。また、公共施設の緑化につながるとしての「植栽」が第4位となっていました。

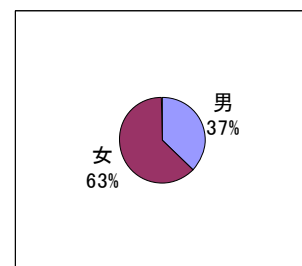
そして、第5位には「住民との会話増」があがっており、この取り組みを通じて、職員と市民、市民と市民など幅広いコミュニケーションが深まっていることが伺われます。



◆アンケート回答者の属性

<男女別>

女性が130人（63%）、男性が77人（37%）でした。圧倒的に女性の支持があったようです。



<年齢層別>

年齢層は、60歳代の65人（32%）、50歳代の56人（27%）、70歳以上の46人（22%）が上位を占め、50歳以上（壮年・老年層）が全体の81%を占めています。そのほか、30歳代の27人（13%）が続

